世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム

峡東地域には、果樹栽培による四季折々の美しい農村景観が広がる

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業とそれに密接に関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった、将来に受け継がれるべき重要な農業システムを認定する制度です。古くから果樹の産地として知られ、独自の栽培技術や果樹加工技術など、世界に誇る特色を持つ「峡東地域の扇状地に適応した果樹システム」が、令和4年、世界農業遺産に認定されました。

果樹農業システムの特徴

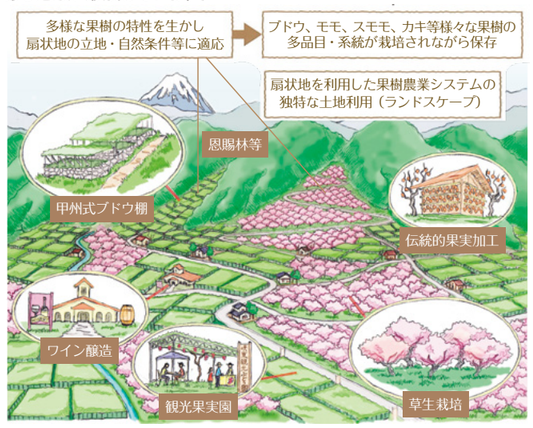
地形・気象に応じた多種多様な果実栽培

峡東地域では、扇状地特有の傾斜や起伏、土壌などの異なる自然条件や多雨・湿潤な気象条件に適応するため、効率的で独特な土地利用が行われてきました。適地・適作により、10品目以上、品種・系統数は300以上の多種多様な果樹を栽培する地域であり、付加価値が高い世界トップレベルの果実生産により、収益性の高い農業経営を実現しています。

栽培される多種多様な果実

長い歴史で培われた知恵と独自のシステム

峡東地域は、日本のブドウ栽培発祥の地とされ、ブドウ「甲州」は平安時代にはすでに栽培されていたといわれています。約400年前に峡東地域で考案された「甲州式ブドウ棚」は、降水量の多い日本の気象に適応するために開発された技術で、現在、日本のブドウ栽培のスタンダードとなっています。他にも、生物多様性を育む草生栽培、枯露柿やワイン醸造といった果実加工、観光果実園などとともに発展し、世界に誇る特色ある地域を形成しています。



峡東地域の果樹システムの概要図

ユネスコエコパーク

Biosphere Reserves

甲武信ユネスコエコパーク

奥秩父主稜の中心に位置する甲武信ケ岳

四大河の源流域

甲武信ユネスコエコパークは、甲武信ケ岳、金峰山、雲取山などの山々が連なり、荒川、多摩川、笛吹川、千曲川の四大河の源流部に当たる奥秩父主稜（しゅりょう）とその周辺地域で構成されています。

豊かな地層と岩石に育まれた環境に多様な動植物が生息し、特にチョウ類は126種確認され、生物の希少な宝庫となっています。また自然と共に歩んできた長い歴史を背景に多様な文化が育まれ、民俗芸能や山岳・神社信仰が今もなお息づいています。

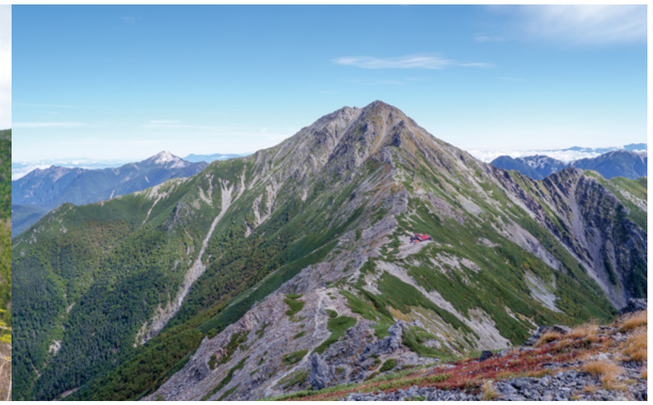
ヒメギフチョウ

さらに、地理的特徴や気候を生かし、ブドウ、モモなどの果樹栽培や高原野菜のレタス栽培など特徴的な農業が行われています。

植樹活動

首都圏近郊にありながら豊かな自然を有するこの地域は、約1,800万人の暮らしや産業を支える水源地となっており、自然環境保全の取り組みも積極的に行われています。

南アルプスユネスコエコパーク



赤石山脈の高い山々と深い谷

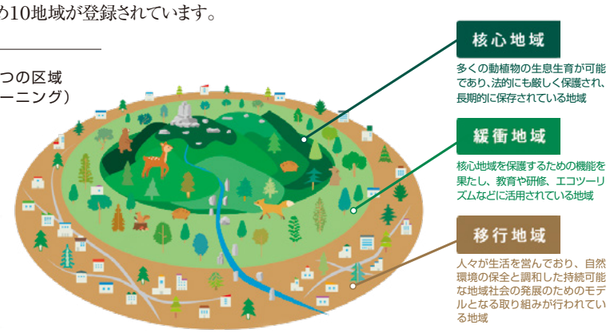
高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性

南アルプスユネスコエコパークは、3,000m級の山々が連なる赤石山脈の急峻な山岳地帯とその周辺地域で構成されています。国内屈指の多雨多湿地帯であることから、森林の独特な垂直分布が見られます。また、キタダケソウなどの固有種をはじめ、氷期の遺存種であるライチョウなど南限種が多く生息する、生物多様性に富んだ自然環境となっています。山稜部には準平原や氷河地形が数多く残され、活発な地殻変動によって現在も年間約4㎜隆起し続けています。

ライチョウ

古来より急峻な山岳地形が交流の障壁となり、富士川水系、大井川水系、天竜川水系の流域ごとに習慣、食文化、民俗芸能などの個性的な文化圏が形成され、現代まで継承されてきました。麓の地域では、これら自然や文化を体験できるプログラム開発などの取り組みが盛んに行われています。

キタダケソウ

ユネスコエコパークとは？

ユネスコエコパークとは、正式名を生物圏保存地域といい、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的として、ユネスコが国際的に認定した地域です。日本では「甲武信」「南アルプス」をはじめ10地域が登録されています。